

千葉日報連載記事をまとめた書籍『小象の 元気！で行こう』
すべての千葉県立高校157校の校長と養護教諭の先生に寄贈
生命の不思議・生まれたことの奇跡について強調しています

2021年7月15日千葉日報報道

生活習慣病予防を訴え
小象の会 県立学校へ書籍寄付



子どもたちに生活習慣病予防の大切さを知ってもらおうと、千葉市中央区のNPO法人「生活習慣病防止に取り組む市民と医療者の会」（愛称・小象の会、篠宮正樹理事長）は14日、県立の高校、特別支援学校計157校に啓発書籍「小象の元気！で行こう」350冊を寄贈した。

小象の会は糖尿病などさまざまな病気を誘発する生活習慣病を医師や専門家、市民らで連携して防止しようとしてきた。2005年6月に設立された。啓発書籍は千葉日報紙面で2年間70回にわたり紹介した連載記事を1冊にまとめた。今後、病院などにも配る予定だという。

県庁で行われた贈呈式で、篠宮理事長は「生活習慣病予防のために、広く利用してもらえれば」と話した。県教委の富塚昌子教育長は「子どもたちや先生に見てもらい、教育に生かしていきたい」と感謝した。

書籍と目録を富塚教育長（右）に手渡す
篠宮理事長＝14日、県庁